

予備自衛官補Q&A

- Q** 採用試験の内容はどんなものですか。
A 筆記試験として、予備自衛官補（一般）において、教養試験及び作文、予備自衛官補（技能）において、小論文があります。共通の内容として、口述試験、適性試験及び身体検査があります。
- Q** 教育訓練は、体力的についていけるでしょうか。
A 教育訓練は段階的に実施しますので、体力的な面についても心配はいりません。
- Q** 教育訓練はどのような要領で行われますか。
A 事前に訓練日程を地方協力本部から提示されます。教育訓練は1回の出頭で5日間を基本とします。また教育訓練課目は、年間複数回準備されており、必要な教育訓練に出頭できなかった場合、次の機会を選択することができます。
- Q** 教育訓練出頭期間の生活はどうなりますか。
A 教育訓練出頭期間中の予備自衛官補の生活は、自衛官の生活と同じです。教育訓練招集担任部隊等の長の指定する施設内（基本的に駐屯地内）に起居しなければなりません。また、教育訓練招集期間中の外出は原則として認められません。

先輩の声



中曽根 麻里
予備自衛官補 一般 採用
現 予備士長

●予備自衛官補を志願した理由

阪神淡路大震災の時、関西に住む親友の一家が被害に遭いましたが、自分は成す術が無く何も出来ませんでした。もう二度とそんな後悔をしなくてよいように、新聞記事で募集を知って迷わず応募しました。実際に地震防災派遣の招集はありませんが、予備自衛官となり、防衛出動や災害派遣の際には身を挺して、微力ながらも役に立てればと思います。2年間真剣に取り組んだデニスで、体力的に自信が持ったのも大きな理由です。

●教育訓練50日間の感想

私にとって、今まで生きていた中で一番幸せな生活でした。規律を守り、シンプルに暮らし、訓練に集中する。訓練を通して、初めて素直に人を信じる事が出来ました。教育にあたる人たちは親身で、限られた時間で少しでも成果のある教育をしようという意気込みを感じました。命を預けても良いと思える教官の下で訓練を受けられたことを光栄に思います。

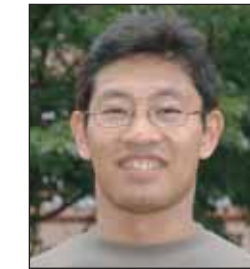
●特に印象に残った教育訓練は？

「基本教練」では各種の動作を確実・正確に行うことの難しさを始めて知りました。「歩哨」では偽装した敵を想定して監視しましたが、後方や上空を監視する時にリアルな緊張感を覚え、頭が震えました。1人のいいかげんな行動で、部隊が全滅することもあると座学で習っていたので、自分の行動に責任を持ち、少しでも確実に習った事を身につける。この繰り返しに清々しい達成感を感じました。「掩体構築」は穴を掘ればいいと軽く考えていましたが、地面が固く力不足・体重不足を感じました。仲間や班長に助けられ何とか掘れましたが、次の訓練までに更に体を作るの必要を感じ、「もっともっと」という向上心が湧き上がる素晴らしい経験でした。「良い結果を出す」という気持ちで臨んだ今回の訓練、次回の訓練が楽しみです。

●これから予備自衛官補を受験する予定の皆様へ

自衛隊は万事戦闘を基準として行動します。それゆえ、教育訓練が終わった時に「使える人」になっていることが必須なのです。教育、食事、宿泊を提供され、被服を貸与され、手当てを頂いて教育訓練を受けるのですから、その重さ、責任を理解する必要があります。訓練で得るものは大きいです。人生観も変わります。思いっきり自分自身を試してみよう、そして、自衛隊生活の心地良さも知って頂ければと思います。

- Q** 教育訓練だけがをした場合、補償はあるのでしょうか。
A 予備自衛官補の教育訓練招集中の職務に起因する災害（負傷、疾病、障害、死亡）については、現職の自衛官と同様の補償が行われます。
- Q** 予備自衛官任用後の出頭訓練はどんな内容ですか。
A 予備自衛官任用後の訓練は、指定された部隊等において、訓練練度維持のための年次訓練（5日間）を行います。
- Q** 予備自衛官補になれば、災害派遣、PKOなどの国際貢献活動に参加できますか。
A 予備自衛官任用後、特に必要と認められる場合、災害派遣に参加できます。また、予備自衛官が災害派遣に派遣された例はありませんが、年次の招集訓練において、地域の総合防災訓練に参加している例があります。しかし、予備自衛官がPKOなどの国際貢献活動へ参加することはできません。



松下 豊
予備自衛官補 技能 採用
現 予備2曹

●予備自衛官補を志願した理由

私は人の役に立ちたくて、予備自衛官補に志願しました。災害派遣で活躍する自衛隊の勇姿をテレビ・新聞等でよく目にします。子どもの頃の自衛隊に対する軍隊的なイメージが少しずつ崩れていき、「隊員になれば人のためになにか出来る。」そんな思いが強くなってきました。そんなとき友人の紹介により、自衛官未経験者でも応募できるという予備自衛官補の制度を知り、いてもたってもいられず志願書類を取り寄せ志願しました。

●教育訓練10日間の感想

10日間という短期間でありましたが充実した教育訓練でした。一般に新隊員が入隊後最初に行う3ヶ月間の訓練と同様のことを目標に、技能公募の予備自衛官補は10日間という短期間で訓練します。社会人は時間に余裕の無いなか、教育訓練に参加するため、訓練内容は当然圧縮され、集中して訓練を実施します。すなわち、朝起きてから夜寝るまでの間の全てが凝縮した訓練なのです。そして、その訓練の、1つ1つが隊員の仲間になるための大切なプロセスなのです。いま思えば貴重で充実した時間でした。

●特に印象に残った教育訓練は？

予備自衛官補で教わった教育訓練は、将来予備自衛官においても基本です。予備自衛官補の課程を修了すると、予備自衛官に任命されます。当然の事ながら、自衛官らしくきびきびとした動作が要求されます。一番印象に残った「職務訓練」では、整備出身のため、装輪車整備のシステム等を学習しました。民間で自動車整備する場合、工具不足や音量を気にするという暗闇の中、数限られた工具でクラッチ交換する等、特殊な場面での整備訓練を行っていることを知りました。もちろん民間では野外で整備することなどありません。予備自衛官補を修了してから早くも3年目になりますが、予備自衛官の年5日間の招集訓練では、未だに多賀城でお世話になった班長さん達の顔が思い浮かびます。

●これから予備自衛官補を受験する予定の皆様へ

予備自衛官補は予備自衛官になる第1歩です。皆様も、予備自衛官補を受験する目的は色々あると思います。自分の国を守りたい。災害被災地で手助けをしたい。射撃をしてみたい。自分の技能を活かして社会に貢献したい等でしょう。どのような目的をお持ちの方も予備自衛官補から予備自衛官になり、現職自衛官として活躍してきた方々と同等に行動していくことになります。後で、自分の実力を発揮できる様に、親切に指導して下さる班長さん達の言う事を1つも漏らさないような心構えで見聞きして、しっかり身に付けてください。きっと、世間一般では体験できない、特別な世界と仲間達が待っています。



平和を、仕事にする。
陸海空自衛官募集

予備自衛官補 募集案内

✓ 社会に貢献する新しいカタチ

<http://www.mod.go.jp/gsdf/reserve/>



あなたの情熱を活かす制度

自衛官募集 検索



自衛官募集ホームページ
<http://www.mod.go.jp/gsdf/jieikanbosyu/>

募集コールセンター
 フリダイヤル 0120 063792
 ナビダイヤル 0570 045818（携帯電話）
 （受付時間 12:00～20:00）

お問い合わせ先



予備自衛官補



情熱に応える制度

「予備自衛官」へのステップアップ、「予備自衛官補」についてご説明します。



たとえば災害のときなど予備自衛官として招集され、自衛隊員と一緒に活動して、自分のさまざまな技能(整備・語学・医療など)を活かすことができます。

普段は、社会人や学生であっても、いざという時には自衛官として社会のために貢献できる。それが、わたしたちのもうひとつの役割。

平成13年に、「予備自衛官」の制度の見直しが行われました。国民の皆さんが自衛隊に接する機会を広く設け、防衛基盤の育成・拡大を図るとの視点に立って、将来にわたり、予備自衛官の勢力を安定的に確保し、更に情報通信技術(IT)革命や自衛隊の役割の多様化を受け、民間の優れた専門技能を有効に活用し得るよう、予備自衛官制度へ公募制(予備自衛官補制度)を導入しました。これにより、自衛官としての勤務歴がない方々でも予備自衛官に任用されるチャンスが拓けたのです。

一般と技能の公募コースがあり、平成22年7月1日までに、

全国で約1万名が採用され、教育訓練が各地で行われています。一般公募では、採用年齢に適した皆さんなら、どなたでも応募可能です。また、技能公募では、語学や医療技術、整備などの分野に精通した皆さんが応募することができます。

これまでは、被災地の状況などをテレビで目にし、自衛隊員とともに協力したいという皆さんの思いも、叶えられることはありませんでした。しかし、この制度によって、ご自身の情熱と技能を活かせる予備自衛官にステップアップすることが可能になりました。わたしたちのもうひとつの役割を、いま、始めませんか。

制度の概要

希望者を、試験により予備自衛官補として採用し、所定の教育訓練修了後、予備自衛官として任用します。予備自衛官補は教育訓練招集に応ずる義務のみを有し、防衛招集、国民保護等招集及び災害招集に応ずる義務はありません。一般公募(後方地域での警備要員等)と技能公募(医療従事者・語学要員・車両整備士等)を設けています。

	一般公募	技能公募
採用対象	自衛官未経験者(自衛官であった期間が1年未満の者も含む。)	
採用年齢	18歳以上34歳未満	18歳以上で、保有する技能に応じ53歳~55歳未満
採用	志願に基づき試験により採用	
階級の指定	階級は指定しない	
処遇	教育訓練招集手当:日額7,900円	
教育訓練日数	50日 / 3年以内	10日 / 2年以内
教育訓練の実施場所	北海道 / 千歳市 東北 / 宮城県多賀城市 関東・甲信越(静岡県を含む。)/ 神奈川県横須賀市 東海(静岡県を除く。)/ 北陸・近畿・中国・四国 / 滋賀県大津市・香川県善通寺市(技能を除く。)/ 九州 / 長崎県佐世保市・鹿児島県霧島市(技能を除く。)	札幌市・仙台市・東京都練馬区・伊丹市・熊本市
試験場	各都道府県ごと	
受付期間	第1回: 1月中旬~4月上旬	第2回: 7月中旬~10月上旬
試験期日	第1回: 4月中旬	第2回: 10月中旬
合格発表	第1回: 5月下旬	第2回: 11月中旬

(注) 第1回で採用予定数を採用した場合、第2回は実施しない場合があります。

教育訓練概要

招集教育訓練は、一般公募が3年以内に50日、合計400時間で履修。技能公募は2年以内に10日間、80時間で履修。なお、詳しくは最寄りの自衛隊地方協力本部までお問い合わせください。

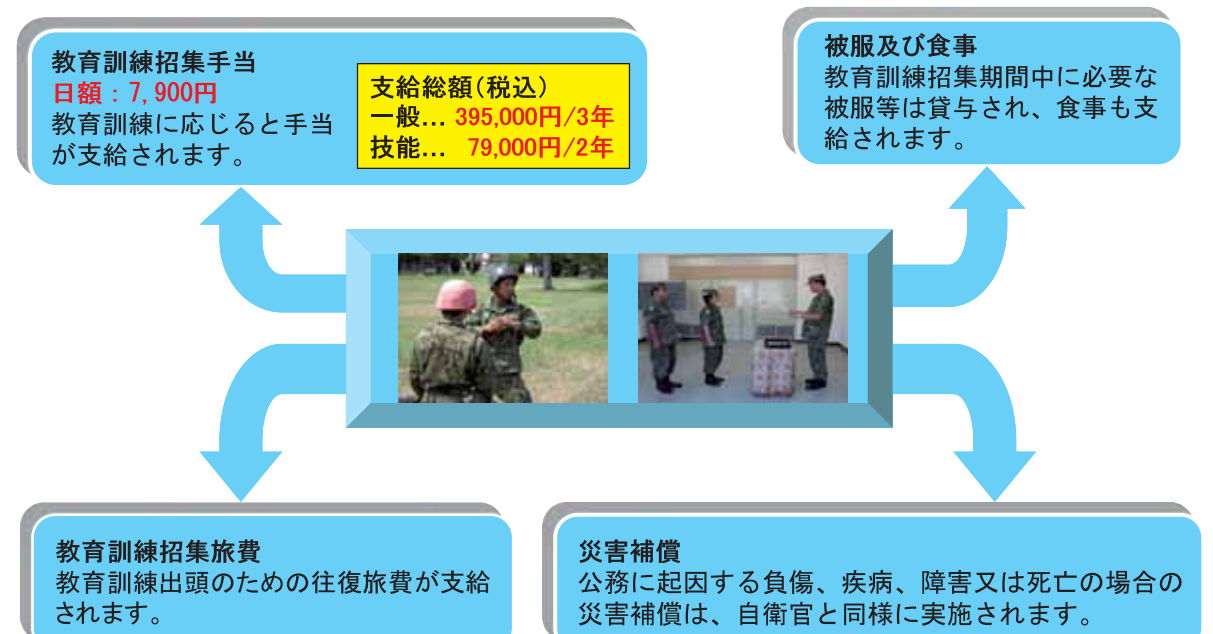
- 一般公募(招集教育訓練)
 - 全般 招集教育訓練を3段階に区別し、それぞれ5日間の教育訓練(A~Jタイプ)を設定
 - 各段階 第1段階: 初歩的な識能を付与する段階
第2段階: 戦闘行動に必要な識能を付与する段階
第3段階: 各種識能を総合化する段階
- 技能公募(招集教育訓練)
 - 全般 招集教育訓練を2段階に区分し、それぞれ5日間の教育訓練(技1・2)を設定
技1タイプから技2タイプへ順次に履修
 - 各段階 第1段階: 最も初歩的な識能を付与する段階
第2段階: 専門技能を発揮するため必要な識能を付与する段階

段階	第1段階(20日)				第2段階(20日)				第3段階(10日)	
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
課目	精神教育・服務・体育									
	基本教練	戦闘訓練	野外勤務	野戦築城	野戦築城	野戦勤務	野戦勤務	野戦勤務	野戦勤務	野戦勤務
		格闘	格闘	格闘	通信	通信	通信	通信	武器訓練及び射撃	武器訓練及び射撃
					特殊武器防護	特殊武器防護	特殊武器防護	特殊武器防護	実弾射撃	実弾射撃
					野外衛生及び救急法	野外衛生及び救急法	野外衛生及び救急法	野外衛生及び救急法		

第1段階での「C・D」及び第2段階での「E~H」は、順番に関係なく履修できます。

段階	第1段階(5日)		第2段階(5日)	
	技1		技2	
課目	精神教育・服務・体育			
	基本教練	基本教練	野戦勤務	野戦勤務
			武器訓練及び射撃	武器訓練及び射撃
	特殊武器防護・野外衛生等	特殊武器防護・野外衛生等	実弾射撃	実弾射撃
			職務訓練	職務訓練

処遇



予備自衛官とは?

普段は、社会人として、それぞれの職業に従事しながら、必要とされる練度を維持するため訓練招集に応じます。有事には防衛招集に応じて出頭し、後方の警備や後方支援等の任務にあたり、特に必要があると認められる場合には、国民保護等招集に応じることとなります。また、平時においても大臣が特に必要を認める場合には、災害招集に応じることとなります。



自衛官であった期間が1年未満の者も含む。(自衛官候補生から引き続き自衛官となった者は、当該自衛官候補生であった期間とを通算した期間が1年未満の者)